

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年8月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

情勢報告

J A 四万十生姜栽培研究会現地検討会（7月22日）



ショウガ栽培技術の向上のために研究会員全員のほ場の生育状況を確認し、今後の栽培管理について情報交換しました。また現地実証試験を行っている会員のほ場では、被覆資材による発芽促進や病害対策農薬等の実証効果を確認しました。

現地検討会終了後には、J A 会議室で殺虫剤の基礎知識の研修会を行いました。質疑応答も多く、効率的な殺虫剤使用に向けた参加者の意識の高まりを感じました。

生姜栽培研究会は、毎月現地検討会等を開催しており、今後も J A と連携し、会員の技術支援を行います。

J A 高知はた十和支所シシトウ現地検討会（7月7～24日）



十和支所シシトウ部会は、11地区で90名の参加を得て現地検討会を開催しました。地区の集会所等集まり肥培管理・整枝剪定・病虫害防除・農薬安全使用の講習会后、ほ場へ移動し栽培状況を確認しました。

露地栽培では、平年に比べると草丈の伸びがやや悪かったことを除けば、病虫害の被害も少なく推移していました。

今後も J A と連携して現地巡回を中心に栽培指導を行います。

J A 四万十アスパラガス研究会現地検討会（7月24日）



アスパラガス研究会で現地検討会を実施し、10名の生産者が参加しました。

本検討会の中で、昨年度から試験している夏季中刈追加立茎について、昨年8月から今年4月までの出荷量が30%、金額が60%増加したことを報告しました。

この結果を受けて、今年度は数戸で夏季中刈追加立茎を実施しています。

本技術が産地全体に普及されるように、引き続き J A と連携して推進していきます。

高南地域集落営農組織代表者連絡会（7月29日）



高南地域営農協議会主催により、36組織54人が参加し、長野県飯島町の地域複合営農の事例講演と、個別組織の活動強化についての研修を行いました。

参加者からは、「今のままでは集落が消えていく」「小さな組織でなく、広域で考えていかなければならない」「後継者や営農継続のために法人化を進めている」といった意見が出されました。

事例講師からは、関係機関による地域営農ビジョン作成、営農の仕組みづくりの必要性などが指摘されました。

今後も、地域営農継続に向けて取り組みます。

J A高知はた大正・十和栗部会総会（8月6日）



平成26年度の栗部会総会が13名の生産者が出席しJ A高知はた十和支所で開催されました。

会では、高幡地域アクションプランの「四万十の栗再生プロジェクト」の「特選栗」の制度についてJ Aから説明し、本制度への参加を呼びかけました。普及所からは、収量の増加や労力の軽減などが可能で、「特選栗」生産技術として取り組みを推進している夏期剪定について、パワーポイントを使って講習を行いました。